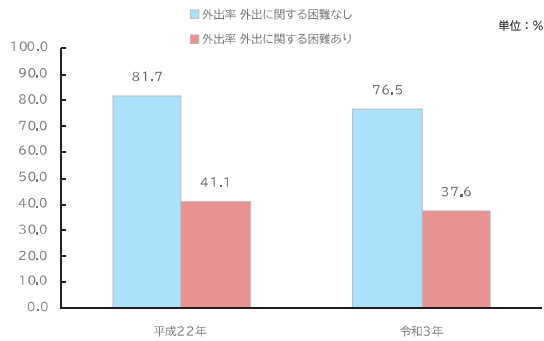


移動困難者の動き

1 移動困難者の外出率と生成原単位

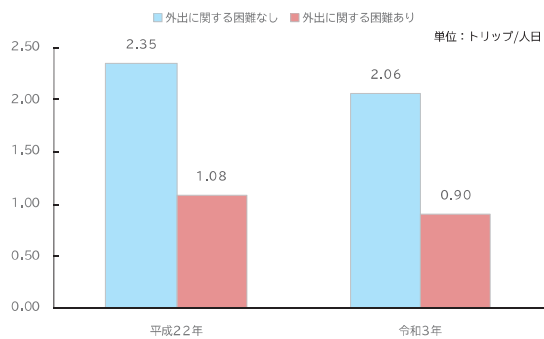
●外出に関する困難の有無別に外出率を比較すると、外出に関する困難がない人は約77%であるのに対して、困難がある人は半数以下の外出率となっています。

図36 外出に関する困難の有無別にみた外出率（平成22年～令和3年）



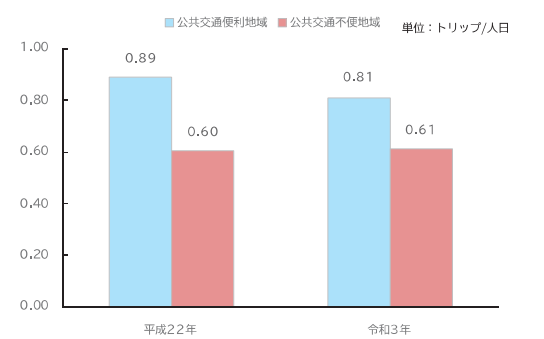
資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査

図37 外出に関する困難の有無別にみた生成原単位（平成22年～令和3年）



資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査

図38 公共交通便利・不便別高齢者の自由目的の生成原単位（平成22年～令和3年）

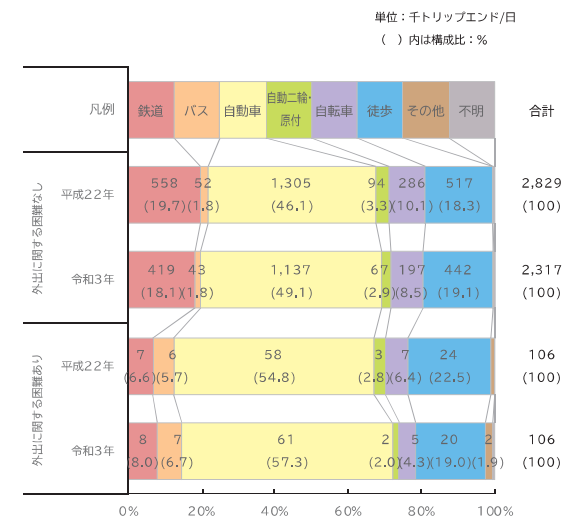


資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査

2 公共交通不便地域の生成原単位

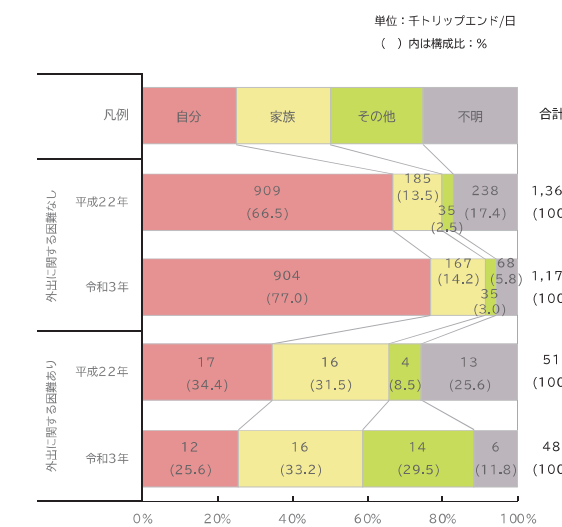
●公共交通の不便な地域においては、高齢者の自由目的の生成原単位が小さい傾向にあり、その傾向は平成22年同様、令和3年にも示されています。

図39 外出に関する困難の有無別にみたトリップの代表交通手段構成（平成22年～令和3年）



資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査

図40 外出に関する困難の有無別にみた自動車の利用状況（平成22年～令和3年）



資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査

3 移動困難者のトリップにおける代表交通手段構成

●外出に関する困難の有無別に代表交通手段構成を比較すると外出に関する困難がある人は、ない人に比べてバス、自動車の割合が高くなっています。
●鉄道の利用割合については、約10ポイントの差があり、外出困難者は利用していない傾向にあります。
●上記の傾向には、平成22年と令和3年で大きな変化はみられません。

4 移動困難者の自家用自動車の利用状況

●外出に関する困難の有無別に自動車の利用状況（運転者の種別）を比較すると、外出に関する困難がある人は、ない人に比べて家族やその他（知人）の割合が高く、自分で運転する割合は3割程度と、困難がない人に比べて少なくなっています。